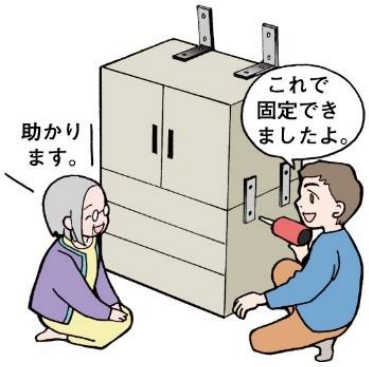
友渕地域の現状と課題（平成19年10月防災ワークショップまとめ）

＜地域の自主防災組織について＞
○町会加入率が低下してきている。
・災害時の助け合いができるか心配。
⇒防災に関する住民意識の向上が必要。
○平日の昼間など時間帯によっては、人材（若い男性）が不足する。
・地域にいる可能性が高い中学生に災害時に活躍してもらう。
⇒中学生を対象に防災訓練を行うなど、学校との連携が必要。

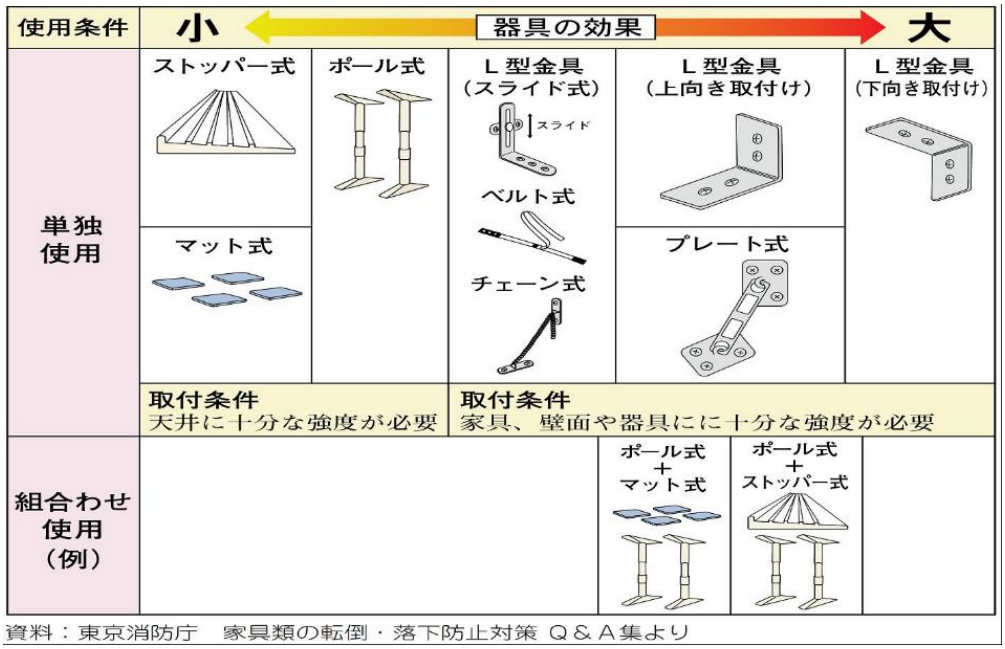
＜災害時避難行動要支援者について①＞
○高齢者の情報把握
・高齢者（70歳以上・約800人）の安否確認体制が必要。
⇒「一人暮らし高齢者」の情報を地図に落とし込んでいる。これを活用して災害時にどう支援するのかを考える。

＜災害時避難行動要支援者について②＞
○高齢者以外にも
・妊婦　・子育て中の親
・乳幼児
が多い。災害時に助けてもらえるのか心配。
⇒災害時避難行動要支援者への支援を考えるときは幼児とその親のことも考えておく。

＜地震の心構え・備え＞
○地震時にはあわてて建物外へ避難せず、自宅で様子を見る。
（落下物で怪我をするのを防ぐ）
○揺れがおさまっても、エレベーターの利用は安全が確認されるまで見合わせる。
○外出中の家族との連絡方法を決めておく。



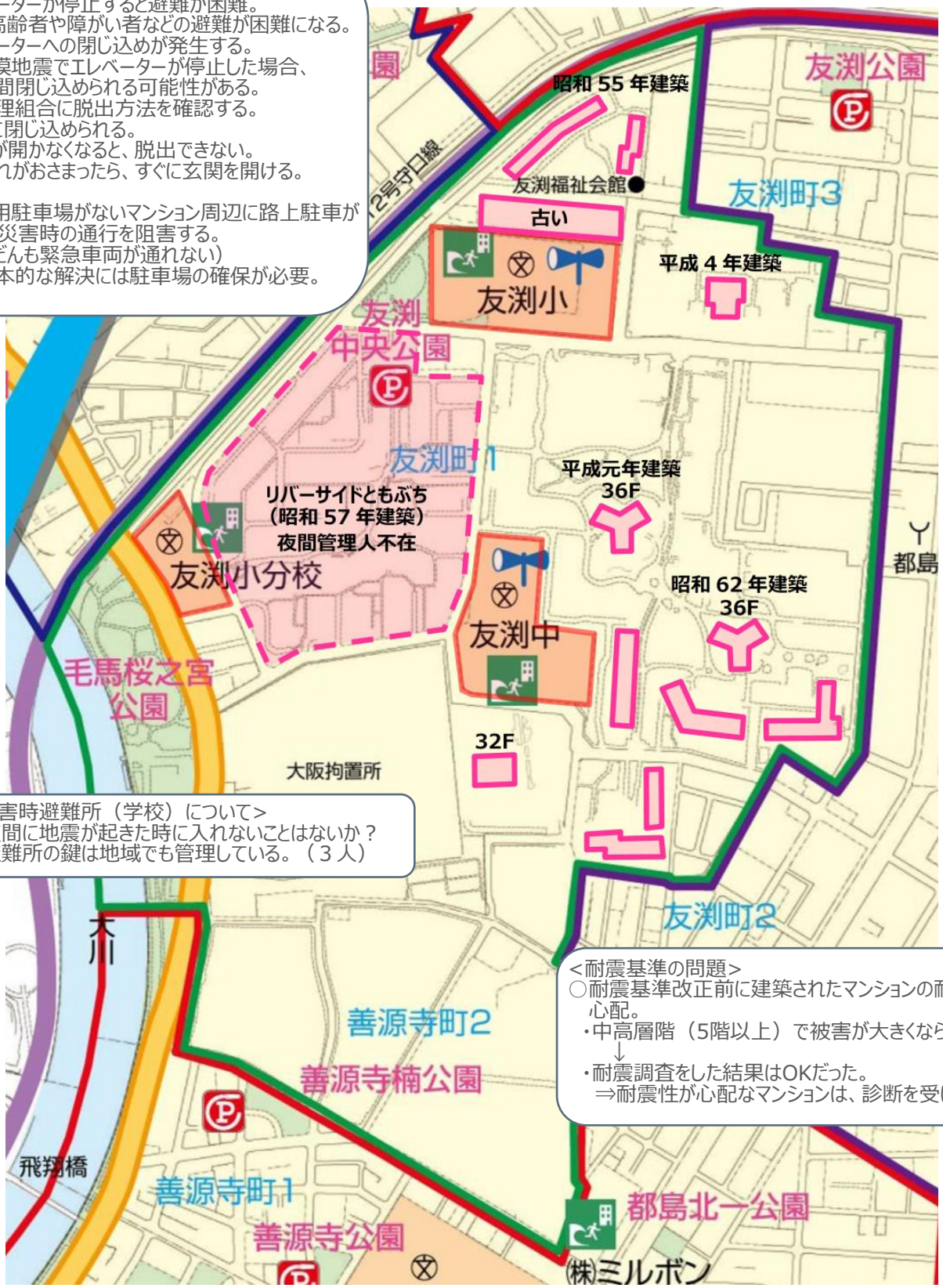
＜阪神・淡路大震災の教訓＞
○友渕コーポで上層階が5mmずれるなどの被害があった。この時の体験を活かして対策をしている。
・大型の家具、背の高い家具を一部屋にまとめる。
・寝室に家具を置かない。
・2段重ねの家具は分離する。
・食料・飲料水を備蓄する。
・風呂に水をためる等。
↓
○震災から10年以上経って意識が薄れてきている。
（対策をやめてしまった人もいる）
⇒地震への備えの重要性を広める必要がある。



資料：東京消防庁　家具類の転倒・落下防止対策 Q＆A集より

友渕地域の現状と課題（平成19年10月防災ワークショップまとめ）

＜中高層マンションの問題点＞
○エレベーターが停止すると避難が困難。
・特に高齢者や障がい者などの避難が困難になる。
○エレベーターへの閉じ込めが発生する。
・大規模地震でエレベーターが停止した場合、数日間閉じ込められる可能性がある。
⇒管理組合に脱出方法を確認する。
○自宅に閉じ込められる。
・玄関が開かなくなると、脱出できない。
⇒揺れがおさまったら、すぐに玄関を開ける。
○その他
・来客用駐車場がないマンション周辺に路上駐車が多く、災害時の通行を阻害する。
（ふだんも緊急車両が通れない）
⇒根本的な解決には駐車場の確保が必要。



＜災害時避難所（学校）について＞
○夜間に地震が起きた時に入れないことはないか？
⇒避難所の鍵は地域でも管理している。（３人）

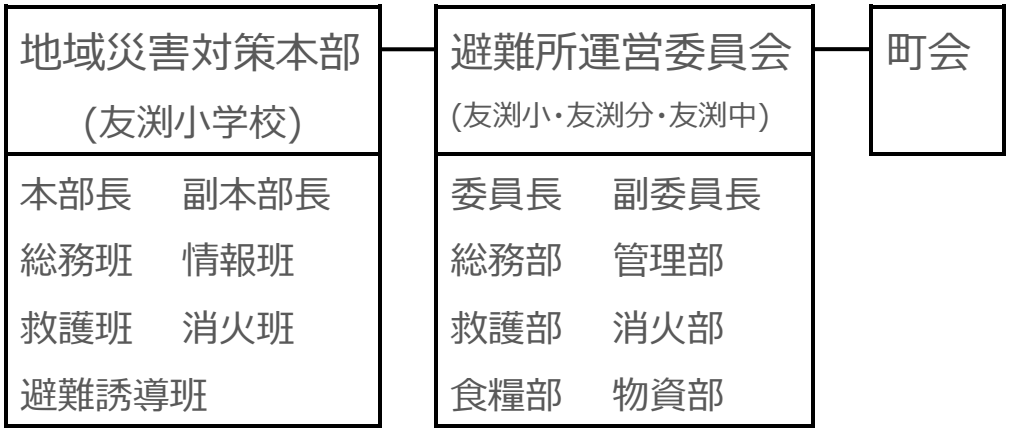
＜耐震基準の問題＞
○耐震基準改正前に建築されたマンションの耐震性が心配。
・中高層階（5階以上）で被害が大きくならないか。
↓
・耐震調査をした結果はOKだった。
⇒耐震性が心配なマンションは、診断を受けてみる。

友渕地域の災害対策本部設置と組織

地域の災害対策・避難所の運営組織

避難者が予想される場合、速やかに災害時避難所を開設します。
災害時避難所の運営は、都島区災害対策本部からの派遣職員、避難所となる施設の管理者、および自主防災組織からなる避難所運営委員会が行うことになります。

友渕地域災害対策本部

本部設置場所	友渕小学校
本部長	連合振興町会長
副本部長	連合災害救助部長
	地域防災リーダー隊長
運営スタッフ	連合振興町会、女性部、地域防災リーダー、 社会福祉協議会、地域民生委員・児童委員、 ネットワーク推進委員、地域福祉コーディネーターほか

【友渕地域の自主防災組織図】